蓼虫箱費句集 下

へ 5
1845
2

蒼札箱畿句集

遠山庵紹鷗撰

秋

秋ゝ

江の光り様々来ゝ出ゝ秋

月ゝ出ゝ如義ゝ来ゝ出ゝの好

今年の秋様々ゝ様の稲の穂

人ゝ出ゝ四年ゝ来ゝ出ゝの秋

知の庭ゝ出ゝ来ゝ出ゝの秋

[illegible]

一二月[illegible]の秋

[illegible]秋も[illegible]

立秋も涼しき[illegible]

秋の[illegible]

立秋も[illegible]眼の[illegible]

[illegible]秋も萩[illegible]

初秋も[illegible]

初野も[illegible]

第一

[illegible]秋の[illegible]

住吉の秋の[illegible]

古像よりの[illegible]

[illegible]

也おし[illegible]萩の[illegible]

石塔の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]秋の巻

枝ちかく寄せたる萩見れば
花ちりすぎてこぼれ咲きの
葉のみ交り残れる枝を惜しみ
市中を初秋新涼の風吹くころ
新宅の庭を出でて萩の露
葉ごとに玉を結ぶ賞翫
新宅の碑の旬にかゝる色
新涼を考へ合せ例田の家
行きつゝあるを考へ下第にあらず

井戸の水を汲みて考へる女郎花
手折る人の露をのみ吸ふ女郎花
夕ぐれの月を待つ女郎花
移り変る文の秋の月は西に
移妻の望みに応ず新の月
いかゝ成る花の姿体こそ賞の
岩手に咲きて稲妻に移ろふ
古びの秋の花もて天の川
加茂川の上を都に紅河

七夕や出て行かつの姫根
織男を淡くの舟とこそうらう
住吉が義門姫きのもとに
稲妻のうけもてのきれ
七夕や秋のめぐりは出て来
義也とは今宵星の妻恋
梶一葉ふれて出るとも
梶ふく葉揺て出るや義やき
月出るうらの露ひ夏の月

大文字や出てあまりつくも蛍
蛍籠や鈴ふるの出る竹の奥
出揺とそとも花咲きう蛍籠
義山のうらの河とうう蛍籠
出て揺や傳く出るの表出家
蛍あるの制揺つるに出家
赤露の井みるを打帰りの水
自ふるの聖を揺てつるとの花
仏尼の花

[illegible]

秋

秋うきを命をもうる法のみち
人住いのくい浮まし山社寒
重きけさく霧の姿の姿を分
ゆ稲のもとをもあらぬ庭九先
ちきれもあれまもく紅葉うきを出
時てけ命を仏稲のうく
大きれ彩雲のうう稲社寒
員中の雲て法うる結姿の九
雁麦を初うを紅の終初きた

相一葉ちるを見て

秋庭の葉ごとの雨の音ぞうしな

一里ばかり水精寺

中くらの萩よりはなほ高く

ちれば花ぬるるまけの水精寺

鶴ヶ岳先師帰

秋雨しきる時牡丹のつぼ

菜屋よりもちてく

鶴ヶ岳や茅舎先師

蓮のうきはの野の家や庵辛子

茅ぶきの法師庵のうしろ

毛蟹くく茅のうしろを出る秋茶

陳皮ぶきの秋のうきうしろ

野よりの陳出来て　蕎

出羽は野のきの四阿ぶきうしろ

出羽ぶきの茅ふる月ちく新蕎麦

ぶきぶきの茅ふる秋の蜂

蜘蛛や美濃山ぶきの宮

[illegible]
時の雪ふりたるは生ふる雨
秋の雪は蓮葉ゆふ日の丸
三日月七夕の[illegible]
牡丹屋の赤の[illegible]
[illegible]
一[illegible]
牡丹の時[illegible]
[illegible]

年の[illegible]
最山を[illegible]
月今宵の時[illegible]
月出[illegible]
[illegible]
良秋の[illegible]
[illegible]
[illegible]
名月七夕[illegible]

名月や摺生寺の松のうち
名ゝゝや一秋深山の住居
名月や門前の茶屋の茶
名月や物ものゝ生駒往来
きもゝのゝふ鉄砲ぬゝ自見ぬ
明ゝゝわれゝゝる他の自尽の
蔵ゝる土橋の上の自見の事
家耀しゝゝ故ゝ畑ゝ自尽ゝ
松葉掃く男山自のゝゝ

時ゝけいゝゝゝの尽ゝゝ面の自
人ゝ遊ゝ俗ゝ音出ゝ山ゝ自
業ゝ山ゝゝゝゝ方ゝゝ法ゝのゝ

望田ゝゝ

自代ゝゝゝ人ゝの聖ゝゝゝ
十六夜ゝゝ雲ゝゝのゝゝ法ゝ
いゝゝゝゝゝゝの山ゝの素ゝ
十六夜ゝゝゝゝゝ明ゝ木ゝ月ゝ
秋ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]の戸[illegible]おとなひ秋の雨
眼の前[illegible]秋の雨
[illegible]低き[illegible]秋の雨
一日[illegible]秋乃雲
[illegible]山[illegible]雲
小海老業[illegible]
牛[illegible]
[illegible]

宇都の山[illegible]

[illegible]人来[illegible]秋の雲
[illegible]人[illegible]
[illegible]の雲
[illegible]秋[illegible]
[illegible]小田の時
[illegible]時[illegible]
夕陽[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋の[illegible]ゆくこの[illegible]日[illegible]天住[illegible]

[illegible]の[illegible]松[illegible]天[illegible]

[illegible]川[illegible]

[illegible]

夕[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

畑蓼の穂を垣根のきくに花
を傳ひかゝり　垣かゝれる蓼の穂
蓼つゝり妻を去りし紀の守
おきくみしくさのうつろ
任去の杉に蓼ふせる菊
猫獨樂の去りし傳蓼の穂
云ましを去り傳きしやどのう
が生ける杉の本やどの月
上京り去りし時の去る月

去りし去りし去りしよりき去りの紅葉
畑のうつりるかきのうつりの
よりう深き未紅屋の上に紅葉
無毒のう
紅葉うれ夕うれ井の流
り秋や雁乃り出り蓼に井
伊勢物語に
蓼去りし時に石に紅山
紅葉のうつりうちむさ紀燒蓼を

[illegible]

秋の深め侍るに松のうらかぜ

甲午の秋東武にて[illegible]を

人々に送りて

新竹[illegible]

[illegible]秋は物[illegible]

[illegible]の時来て見[illegible]

[illegible]

不破[illegible]

[illegible]の[illegible]見ぬ[illegible]不破の秋

吳山の宝[illegible]

先[illegible]越後[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

物[illegible]

中中の秋九月後[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十月七日[illegible]

十月廿日[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

はしに那仏やうをかきの移り変
羽をきたるもの者やかゝる自
業を焼の写しなれ初られ
隆ふるう紅葉のうへ社初時自
きたりしを色きたりて彼方の
一撃に移りうつりやすし初られ
弁慶が細口の太刀を抜きたるを
ものゝ押に汐汲てをるを者を集
ゑ業の移り甲変ける時自られ

きたりしを彼を綱打川きくの
枝のきのうつりけるかの時自り来
時自りを手をうつる筆の新
下京に者きたりよ塔をうつり
京風をを新をきたりゆる時自
きたりを一河うきたる池社水
ものれ枝の者時めのうしをうれ
移筋に枝の脚ふしをきたる雛
きたりを紙出をうをを五位の琴

二見ヶ浦

[illegible]

住吉を見る人を知りぬ時は

[illegible]

夕山も紅葉ぬ望月の時雨雲

[illegible]

[illegible]時雨[illegible]

[illegible]

人[illegible]時雨ぬ[illegible]山

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

を見に出て

木曽のなさけ雪やはえぬく春の草

翁

自画賛ありしを庵は金銀にてかへ

しなけれは未だ此句の懐

紙を幾度か寸紙の様の聲

掃しよきて床の気に掛ひりから

れはしたる自他ともに我を照す

何ものこ紀の膝の上は床の墓の乳

同作は翁忌に

安濃の草木の墓所を訪翁の日

義仲寺にて

むかしあれは塚をめぐりてしかりもあり

先年の翁忌は床母にもしたし

去年は席に算をつらね

十年のりたり榊も拵に舎式様

手向けて年頃ふる十数ありぬ

戸口のひる芦の根は也々ゑは自

奥山のかるかやの和也大根引
その畑の畠中のやまとかの大根哉
姫ゝゝの大根ぬゝ山ぬゝゝ

為貞ゝゝ

大根引志賀の人家の塔ゆゝ
屋也牡丹ぬゝ家ゝ家肯戸の笠
ゝゝゝの咲ゝゝ法恵山
畑の年ゝ法戸の夕ゝ

敦貞ゝゝ

朱牡丹の法咲ゝゝ牡丹ゝ時
引ゝの咲ゝゝゝ雲ぬゝ家ぬ
ゝの中ゝ煙ぬゝゝゝ雲の家
里ぬ野ゝ咲ゝゝ雲ゝ乃家
雲牡丹ゝ雲ゝ入法のゝゝの年
賀ゝ網ゝゝゝ牡丹雲

為貞ゝゝ

唐紙の内ぬゝゝゝ雲ぬゝ
初雪のゝゝゝ雲ぬ雪の雪

[illegible]
[illegible]の雪[illegible]中[illegible]
[illegible]出[illegible]雪の降[illegible]
[illegible]雪[illegible]
雪[illegible]
[illegible]
[illegible]雪の[illegible]
[illegible]雪の里
[illegible]
[illegible]寺
[illegible]雪 仏

播[illegible]
降[illegible]雪[illegible]
時[illegible]雪見
[illegible]降[illegible]雪[illegible]の松
[illegible]
大雪の降[illegible]浦の[illegible]
[illegible]
[illegible]
雪[illegible]仏[illegible]

見るほとり　雲の影はとぎれて謝の後
冬ごもりには霰の網に　魚
野の末は雲も夢かと霰ゝの松
吉野山にて　梅は紅にちる吉野は
桐の葉は古く見えぬ今の厚　紅
蕪かたを川ちりしく落葉のかれ
秋の末にかゝりのゝ荷ゝ落葉はかれ
落ちし後ほのぼ雪ふりの落葉は
次く一木の葉散り　天霧ゝのかれ

さびしき垛の旅見え霰床は　葉
雨聲にあらる同秋の末の落葉
むし床拂ひてあをし　冬　床立
小春の空のもみぢ枝ちり
さえ々たる霜に夜
雲の絶えて落野の冬　床立
さびしさを知らぬ枯尾花
川霧はかりのうちにわたれる枯
時雨ゆく末ぞ長らぬ　程　夔

炭窯也炭とり焼方　烏
窯の高さ形の仕方を第要とする
窯奏の長さ幅深さの形しめる
上手に作る人物を試て茶
釜とも紙紙に書出
釜形とも鐵とも竹とも竹
竹茶の杜時作る方
忠角しく形ひかの細代
細代もしくの茶入の

餅搗とて秋のゝり来あく河しん出る
春ちと見しも猶ましの花ちての九
水鳥の羽にまつけおとに六日白

越中の國布勢の海にて

しのゝて

水鳥のかりの所お新も布勢の海
夕霧の四方も薮松のむらの鴨
鶴鴨の群かた消え日和の水
八重かしらの岸まて麦小鴨[illegible]

紀川に[illegible]しもの新しきのりの宮
薮鳥の[illegible]の[illegible]も眠る鶯
河の浦に[illegible]の松の[illegible]
松の上に[illegible]の村[illegible]紀に[illegible]
[illegible]河に[illegible]
川上に柳[illegible]帰[illegible]
[illegible]の松の[illegible]
[illegible]の自[illegible]
河の[illegible]帰[illegible]

峰よりハ見えし佐保々川にて香
ひとむらしぐるゝ須磨の浦から
和泉の雲井なる其の岬から
高師の浜まで
打あげの浜ぞしまれのうら衛
あかしは長柄の古跡居并
あとさわきるの松ほくみえ
ともにより巻の方は月の光
人の身つのしらえ

夢のうたゝまゆを夜覚の衛につれ
結摂なる何の和の播磨行鶴
蒹つゝ北風松への川つゝ人
上加茂入ゑ集りとは紀の若松
丹後の内宮まで
粮なし荻の井社日の月の里
播磨越まで
ちく来て峯を播ての郷
宇都の小松の野の梢し

農家ハ[illegible]の人
[illegible]自ヲ[illegible]の[illegible]
[illegible]自の加義[illegible]の小家業
相の[illegible]術[illegible]
[illegible]の[illegible]
拙[illegible]相の[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]の相
[illegible]相[illegible]
蝶掃[illegible]の[illegible]

四の中ハ雄子[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]

[illegible]
行[illegible]の[illegible]
大年[illegible]の[illegible]方
[illegible]の[illegible]の[illegible]

雜之部

楷立也庵の文殊も夢ありし

師走へ出ちる見る不二の雪

何となく見る月の暮雨の山

觀音

紅白の寺に浮ぶ哉照る日 御風

晴れ我の月にみる紀の夕かな 素山

垂氷の松柱に落ち初けり 大古

山吹や瓦眼ふさぐ竹の声 冬交

さくらにも蝶の来て紅葉 燈風

朱雀清今に忘れし雲哉 雲蔭

秋は秋の見るも花梅の花 葵風

枯芦の葛結びぬ紅霞 自宏

五位鷺は田に筆の見え初る 甚仙

山うちの秋のあさぎり　秋院
眼のさきるる雲あのゆれ　松石
雲晴れ雲の眺　松操
りなれる雲の秋のさぎり　庵泉
秋の山のををおのひやかぜ　也紅
さきをいさきの時をいそぎ　如素
雲を霧の深をうしやかぬ　牧泉
十月七夕の雲の浦の泉　蓍峰
秋の雲の信をおのれ時雨　仙院
秋の雲の人生のうち相生　雲岱

面の雲鶴の時をいそぎ　菜　院　抱山
月のさきをふるの雲の秋　蓼院
橋楚をを夏の雲の秋　幽雅
月雲の雲の雲の雲の雲　可亭
面社月の秋の秋の梨子の雲　一江
時仙雲雲の雲の雲の松の遠　可楽
雲雲の秋の雲の雲の雲雲　宜和
雲雲の秋雲の雲の雲の雲　雲渡
雲雲の雲の雲の雲の雲の川　雲渡
雲雲の雲の雲の雲の雲の柳　二葉
雲雲の雲の雲の雲の雲の山　霞光

[illegible] 深州
[illegible] 真豊
[illegible] 蓬の面
[illegible] 堂人
[illegible] 松陽
[illegible] 松北
[illegible] 孫之
[illegible] 拾く
[illegible] 柳自
[illegible] 洗耳
[illegible] 柳

[illegible] 柳柳
[illegible] 柳泉
[illegible] 表紙
[illegible] 栗曉
[illegible] 鶴國
[illegible] 秋城
[illegible] 蔭煙
[illegible] 蓬山
[illegible] 素英
[illegible] 國彦

水仙　成里　寄為　蕙馬　白峯　素机　宗管　若右　可保　二兆

二五　緑浮　久栄　移海　岩自　豊泉　如松　川流　湖淋　弧柳

乙葉　霧井　岑史　松麦　峰如　宗峰　川丈　弟葉　古翼　陵山

夕やみの行かゝる山ぶし　赤成
白日の光しかくれぬ　柳塵
春の山伏ゆくかの山ぶし　霞雪

世を出る人の姿や秋の雪　如柳
麦とゝぬ秋の秋原き芭蕉　程友
秋界ゆく程の秋の月　卜水
白のうら野ゆく蘇の雪の月　桂矣
俗を紀捨を尋ぬる物の秋　庵也

見様子のまゝをも紛錠の細みかな　庭梅
吹晴て汀の空となりし今日の月　葉交
湯泉宿にとくとく柳の香合　六郡里
其の立樹計りゆれる霞かな　雅壺
拂ふ雲に吹れて若葉の色　也自
吹晴て栞の緑く秋の月　和鶴
走雲とも空に晴れし夜の雨　春年
初花も一際しをれて色　交永
秋雨のこし吹かる山根の水　旭高
初雷に何もしるよりけの新　沆翠

鍬の目に畑の廣さや秋葉　宋曉
明る秋も何と迎へる稲の露　立彩
時あまりくる庵の庭かな　翔人
岸も鴨ゆくゆくまで見る　澄高
今朝の武蔵野も雪の中　五渡
生む千葉を浪の来る杜若　素竹
秋の夜の空より月の杜若　山翠
山の戸も前に緑慶も　群雅
春雨やおしい明るあめの雨　五八九

[illegible] 外
[illegible] 年
[illegible] 沼
[illegible] 頃
[illegible] 友
[illegible] 四
[illegible] 原
[illegible] 枝
[illegible] 園
[illegible] 夢

[illegible] 二階の[illegible]
[illegible] 一線
[illegible] 葉
[illegible] 枝
[illegible] 成
[illegible] 雲
[illegible] 用
[illegible] 山
[illegible] 鬼
[illegible] 枝
[illegible] 峰

[illegible] 雨 四方
[illegible] 一殿
[illegible] 千義
[illegible] 水
[illegible] 大歌
[illegible] 護民
[illegible] 自識
[illegible] 四角
[illegible] 仮寄
[illegible] 竹堂

[illegible] 一志
[illegible] 一英
[illegible] 一蒙
[illegible] 雪炭
[illegible] 竹山
[illegible] 象雄
[illegible] 涼出
[illegible] 青物
[illegible] 可久

十夜から紙燭の内に今年酒　玄子
今朝も先は鐵ふに吹かれけり　彼同
入かけて聲のはなやかに月の雨　其游
畑打や枚は坂晴て遠き鶴の　其川
稲妻や忙しき夜の人の家　主　萬觚
若菜の日盛り蒼々と華の影　杓古
堤の崩も隠に春乃　春　自之
本州の秋の虫鳴の夜露しの秋　海月
秋凝や崇陵の山の月の秋　以蝉
薮の中は香の雲に庭の荻　薮月

竹の葉は菊乃縁の鹿の山　蒼山
うくひすや何の茂蕉は　澱雪
冬かれて雪の中山に寂しくの杜　其川
菜の花やゆるり野に遊ひ　安山
夜の秋や人の井戸加茂の森　拾山
雉子の聲あくる宿の秋の雲　佛一
蝶は只春はくれ入て山気　如松
鳩の羽に風て山気に　佳谷
春風や彼岸掛ての人通り　秀雪
山寺ふ花の散く音や海苔　其岑

晴さうな山路は色に成らしかな　素好

出代や鏡にうつる面影　涼良

咲ふけり梅四五輪や窓の表　南交

苞中々に都らしの世事の雲　菊海

都に待ハ秋をまたなりし鶯の声　清舟

家出らしは何を女子作る梅の軒　田来

猿の手や女の伝へ絵を人の果　集化

霞の戸やらの宿に燃る事ぞかし　海雅

嘆きの声を聞くのゝ人の声　弘湖

春さ中にや敷は雲に梅の月　菊涯

伝ふ志みしや古声に枕の継り　銀我

名のみの声のかしし火を数　峯一

霧の中に雲の先ある彼ら　桂阿

宵ゟの空に夜は梅露　雪扇

志のゝちに紅かな萩の秋の陰　少竹

山本もや夜の梅を物しく抹　素鼓

篶の下に森の枝に降る雪　義村

泉教を見ゆの月の月の他　清湖

不動に悲れ山の橋にゆ　江平

出初の床柿を空も爰に面　物六

蓬山　彩雨

蓑虫居士

おの面おもかけつゝみかくす蓑のうち　秋江
りん虫の鳴なる秋の岩の穴　由誉
稲穂の穂数ふるゆゑのあるなめり　瓦村
小雀人に捕られぬるなめり　卜早
かゝるこの接ぎをもぬけの殻　かた良
生長のゆゑみあるこの蟲先

碌碌流の俳諧の織り為き　仁
人の為生れる土性を作るこの　誉
人の為に為る事業の女連生　村
ひゆくかたに新しい貧業　早
番ぶれ見れば味噌屋原物　良
りれいこそこの子形のこゝる　仁
祇園会の月さえこの宵のこと　誉
河内のこゝろ祇園の鶏　村
業三味何処の稽古かなに出で　早
本家の鶏　社会のこゝろゆく　良

[illegible]の梅　仁
[illegible]　整
[illegible]　村
[illegible]　早
[illegible]　良
[illegible]　仁
[illegible]　整
[illegible]　村
[illegible]　早
[illegible]　良

[illegible]を秘蔵しうり　仁
[illegible]　整
[illegible]　村
[illegible]　早
[illegible]　良
[illegible]　仁
[illegible]　整
[illegible]　村
[illegible]　早
[illegible]　良

抱華
白起
荷步
就出
巴雲
雪踏
埔谷
遥海

徳〻
孫久
一甫
雲年
五肯
自拝
雪吹
若山
河第
西馬

梅か香や鹿川香の柳かな　年丸

名も新し鶯の羽にかゝる露　由之

初秋の風涼しもの姿かな　芝雅

鶴の脚に浮上りてゆく水の月　桂琳

人去て跡に松ある暮の霜　徒隣

竜の尾のおぼつかなくも月の榴　青甫

涼しさもまるかなしき花の笑　梅暁

清らかに何も新しき月の匂ひ　羽雲

ともし火の下にゆく桜の声　きく雄

山路来て旅の宿かな郭公　見外

仲かふよ月夜の秋の人の跡　鶯栽

物言はぬ人も手にとる花の春　竟

雲の色も見ゆるの風の庵かな　擇安

秋の日の浮世も雲は流れ行　素山

菊の花折人に咲く梅の月　和雅

藤の花は萩に粧ふ山の露　梅岐

夕暮の花ある里の蔭の雲　松住

菊さく人起きて行く山の柿　芳湖

蛍の月にかゝる露の竹の露　好甫

静かさも夜の人の菊の後　鳥来

[illegible]　探雪
[illegible]　芦角
[illegible]　功成
[illegible]　稜帝
[illegible]　岳山
[illegible]　吳渓
[illegible]　玉石
[illegible]　古山
[illegible]　五石
[illegible]　梅笠

[illegible]　佛芝
[illegible]　香遠
[illegible]　芦湖
[illegible]　江戸住
[illegible]　簡心
[illegible]　秀住
[illegible]　梅子
[illegible]　五林
[illegible]　春仙
[illegible]　遠渕

牡丹　芍薬
春山　春山
東州　東州
抱叔　抱叔
竟陵　竟陵
芳山　芳山
嬉舎　嬉舎
井筑　井筑
京湖　京湖
不佞　不佞

卯月
春高　春高
春来　春来
春山　春山
和巷　和巷
茅野　茅野
樵径　樵径
松永　松永
芦垂　芦垂
得蓋　得蓋

なくさき蝶をまちて梅若も　樵菜
[illegible]人も行く[illegible]の[illegible]　春世
春社鐘声[illegible]海棠[illegible]　樹石
[illegible]の[illegible]の梅　梅[illegible]
秋の梅[illegible]　仮静
[illegible]人[illegible]　蓬之
蝶[illegible]　[illegible]
[illegible]水[illegible]　来則
[illegible]甲[illegible]　善水
[illegible]の[illegible]　以粛
[illegible]人[illegible]　来足
初[illegible]行　去年
[illegible]　[illegible]
[illegible]初桜　芝山
[illegible]扇の[illegible]　[illegible]
夕[illegible]山[illegible]一[illegible]　以青
又[illegible]行[illegible]　樵菜
[illegible]人[illegible]先[illegible]　[illegible]
夕[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible] 為山
服[illegible]紙袖[illegible]古紙 [illegible] 長之
古[illegible]社[illegible]扇[illegible] 生[illegible]
如月 [illegible] 松宜
[illegible] 山[illegible]
[illegible] 山方
面[illegible] 古紙
秋[illegible] 邊交
[illegible] 松生
[illegible] 百丈

本[illegible] 牡[illegible] 仙
[illegible] 素水
大[illegible] 探
[illegible] 梅自
[illegible] 玉
[illegible] 一修
萩[illegible] 結之
[illegible] 貞
[illegible] 彼[illegible]
[illegible] 紫[illegible]
[illegible] 玉梅 [illegible]

[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　一向
[illegible]　[illegible]又
自[illegible]　梅壺
[illegible]　[illegible]壺
初夢[illegible]　[illegible]雅
[illegible]　[illegible]女
[illegible]　[illegible]府
[illegible]　[illegible]

[illegible]　東子
[illegible]　東市
[illegible]　柏志
[illegible]　思絵
[illegible]　[illegible]
[illegible]　巳[illegible]
[illegible]　暁村
[illegible]　[illegible]孟
[illegible]　東文
[illegible]　敬高

[illegible] 霞山
[illegible] 松園
[illegible] 新井
[illegible] 蓑源
[illegible] 帰朴
[illegible] 磯く
[illegible] 禁東
[illegible] 子り
[illegible] 喜五
[illegible] 東雅

[illegible] 貴し　かたら
[illegible] 七英
[illegible] 内乗
[illegible] 世大
[illegible] 壽
[illegible] 卜早
[illegible] 色村
[illegible] 丁和
[illegible] 由髮

先師榮九翁の十三回忌に

たうとあかつきの小車のめぐりの

如く家又いとなむ者を

うきね程うとあはれなる

如き世界に居るこころ

きのうは社を思ひ出さるる

花のあるじ忘れぬ人の墨くれば　祖仙

追加

世の風雲に長吟する時

たつ時に時雨も降る鐘の聲　一無

人は生を降るる雪の

春時を待て用ゐる物業所　松兼

一日生は重出づる山の月　文貞

時雨聲なる行く秋　春岸

雲行の中に仏ち鈴　尊仏

雲行の中に重出の月　一徳

天時を人の一人の　知南

英吾文

陸奥

雲波

つゝ掛さるの歌きゝ侍れば 業鏡 洪鎮
ゆるす春さゝ宿と書のかやもる春の雲 竹柱
をりしらぬ春きぬ作る花の風 克善
青芝かりかゆ仕る先外 一止
業平の歌きゝ侍りて星月夜 惟章
凡兵衛一の先作の歌の蓋 其三
鶯岩ひ和尚すゆ体く居かゝる 常昌
きゝの山乃ゆるものゝ自居 文野
秋の雪沽り侍りて朱ゆくり 啓伸
宵業仕ゆひかけて的の矢 永州

春ゆくゝ新の春の花八重霞 第交
更る秋や紅甲斐時雨 壹州

業平ゆきゝ雪ゆ月を花の歌 北里
宗鑑和尚仕つくしの下ゆくゝ 可野
山路や秋る竹くれ竹ゆし 夕照
生きゆの物宮の紙生ゆ仏 李年
ゆしゆ下業ゆ月の蓋の歌 物逸
此比や紫のあゝ戸ゆ陰ゆる 乗抵
月陰を秋りゝ物の白ゆ 古巷

[illegible] 芭蕉
[illegible] 秋雲
[illegible] 秀女
[illegible] 稻麦
[illegible] 西曙

夕立に[illegible]一ツ松　信因
[illegible]人[illegible]の[illegible]　等秀甫
[illegible]て[illegible]出る[illegible]　白云丸
みすの[illegible]の[illegible]　海棠

[illegible]霧を疑さぬ曙[illegible]　古柳
[illegible]の[illegible]　里雄
[illegible]　里曉
[illegible]　秋美
夕立や晴て[illegible]の水の音　丁東
[illegible]　杜鳩
[illegible]の[illegible]　和平
夕[illegible]戸口[illegible]を[illegible]　鈴方
[illegible]る[illegible]の[illegible]　柳如
[illegible]　之信

[illegible]の蓋の古筆先たの[illegible]　古武[illegible]

[illegible]　物外

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible] 手紙
[illegible] 有川
[illegible] 吉
[illegible] 海泉
[illegible] 柱堂
[illegible] 壽牧

官許 登龍丸（とりうくうん） 定價 一日分金九錢 七日分金拾七錢

（たんせき）

此登龍丸ハ我家の秘法ヲ以て諸君の知ル實○たんせき
ヲ通ス妙藥なり歷ヘハ十年二十年
たんせきを以上猶ほ多ク又ハ三年ニ也ハ稀ニ
幾度も癒ヲ得ざるなり而して其ハ
一ト廻リ數年來難症ハ三廻リも併用致候ハヽ治ス事如
斯要效ハ本能書ニ記す

官許

龍聖湯（りうせいたう）

血の道一切の大妙薬

一日分 定價金四錢

此龍聖湯ハ產前產後ちが道の大妙薬ゑ
昔より血の道薬数多ありといへども代々種々
あるき奇薬なり用ひて功験大なるを去る
つゝ安ハ安能まゑ去るゑす

登龍丸
龍聖湯 本舗

東京神田末廣町七番地
青雲堂英屋小堀謹製